

媒体名

健康と医療

掲載日

2010年5月6日発行
(4月2日号)

タイトル

「話題追跡」

「AC-11」

J H M 話題追跡

DNA修復を促進する唯一の物質

先日行われた、健康原料・素材・OEM展において行われたセミナー、会場が満員で立ち見が出、さらに会場の外でも耳を傾ける者がいるほど注目された講演がある。遺伝子損傷の修復を促進する「AC-11」の発表を米国のFDAから許可されている「AC-11」としてサプリメント素材の開発者スウェーデンのLUND大学名譽教授Dr. Ronald W. Pero氏が来日、「AC-11」について解説した。本稿では「AC-11」を紹介すると共に、日本のサプリメント関係者の注目を集めたセミナーをダイジェストで紹介する。

「AC-11」は、遺伝子損傷の修復と、全く違う機能を持つため、その抽出法を含め、機能成分であるカルボキシルキルエステルについて、米田をはじめとする関係者が取得されており、FDAから「AC-11」はDNA修復機能の向上を助ける(GA-11 helix enhance natural DNA repair system)という機能表示を許されたサプリメント素材だ。

スウェーデンのLUND大学名譽教授Dr. Ronald W. Pero氏は「AC-11」の開発者であるが、そのうち、DNA損傷と修復、それに関する老化の研究について、2006ほどの論文を発表している。世界屈指の分子生物学の研究で、真のアンチエイジングを行うことの出来るサプリメント素材と知られている。



「AC-11」について語るスウェーデンのLUND大学名譽教授Dr. Ronald W. Pero



会場の外にも人があふれる盛況ぶり

分子生物学の権威

Dr. Pero氏、DNAの損傷と修復のセミナー大盛況

同氏が一般にまでその名を広めるきっかけとなったのが、8年前の著作である「REVERSE AGING」だ。遺伝子損傷を修復することによって老化をリバーシブルにするという大胆な内容の書籍だ。Pero氏は本書の中で、食品で摂取された分子が、遺伝子にどのような影響を及ぼすのかを明らかにして「AC-11」を開発した。先に行われた講演では、76年にジョン・ナル・アカチミノーオプサイエンスに発表されたDNA修復がアンチエイジングの分子標的であると議論する、30年以上続く遺伝子損傷と修復の研究に、そこから導き出された「AC-11」について、その回答について解説した。

老化に対する仮説は、よく知られている。探している。それらの研究結果は、全て論文発表・学術誌に掲載という形で、分子生物学や医学の学会に、公式に認められている。そのPero氏は「DNA損傷の修復を促進する唯一の物質」と言っているのが「AC-11」だ。Pero氏は、様々な遺伝子損傷・修復の評価の生化学的手法を学術誌に発表している。例えば、不定期DNA合成や核様体沈殿、DNA鎖切断の解析や血清チオールの測定など、「AC-11」も当然ながら、血清チオールテストをはじめとする様々な詳細法によって、その機能が検証されている。その上で、唯一の遺伝子損傷修復を促進する物質と評価されているのだ。

遺伝子が損傷し、老化という現象が起こるメカニズムは、どのようなものなのかというところからミトコンドリア内でのATP産生の過程で、約10%ほどの活性酸素が発生することが知られているが、Pero氏は「グルタチオンやレジミンEなどラジカルキヤベンジャー」はこれら全てを捕捉することは不可能で、内因性の遺伝子損傷は、細胞内で必ず起こっていると述べた。

「胃腸で述べたように、健康原料素材OEM展で行われたセミナーでは、立ち見だけでなく、会場外でも、Dr. Pero氏の講演に耳を傾ける来場者が詰め掛けた。近年、海外からの講演者とは、異なる、これほどまでにサプリメント関係者の注目を集めたセミナーは数少ない。

「AC-11」は、今後、一般消費者の注目を集めることになることは、間違いない。アンチエイジングクリニックにおいても、絶対に見逃さずこの出来ぬないサプリメントになることも、間違いないであろう。

「AC-11」は、老化と関係が深い。老化を促進し、それに伴う疾病のリスクを高めている。30年以上の歳をかけた、Pero氏の研究は、まず老化と遺伝子の関係を解明し、そして遺伝子の損傷を数値化する指標を開発、さらには遺伝子損傷の修復を行うための答えを「AC-11」で示している。

「AC-11」は、血清チオールテストをはじめとする様々な詳細法によって、その機能が検証されている。その上で、唯一の遺伝子損傷修復を促進する物質と評価されているのだ。

遺伝子が損傷し、老化という現象が起こるメカニズムは、どのようなものなのかというところからミトコンドリア内でのATP産生の過程で、約10%ほどの活性酸素が発生することが知られているが、Pero氏は「グルタチオンやレジミンEなどラジカルキヤベンジャー」はこれら全てを捕捉することは不可能で、内因性の遺伝子損傷は、細胞内で必ず起こっていると述べた。

「胃腸で述べたように、健康原料素材OEM展で行われたセミナーでは、立ち見だけでなく、会場外でも、Dr. Pero氏の講演に耳を傾ける来場者が詰め掛けた。近年、海外からの講演者とは、異なる、これほどまでにサプリメント関係者の注目を集めたセミナーは数少ない。

「AC-11」は、今後、一般消費者の注目を集めることになることは、間違いない。アンチエイジングクリニックにおいても、絶対に見逃さずこの出来ぬないサプリメントになることも、間違いないであろう。